

心の輪を広げる体験作文

【小学生区分】最優秀作品

千葉市立小谷小学校 六年

## パラスポーツ体験を通して学んだこと

藤盛 ゆい

私は、障害者スポーツに対して、競技をする人はごく一部の人だと思っていた。なぜなら、毎日リハビリに通ったり、病院に行ったりといそがしいイメージがあり、スポーツをやる時間がないと思っていたからだ。

先日、私はパラスポーツフェスタに行った。そこで、競技の数が多いことを知り、驚いた。また、競技体験をさせてもらった。義足体験では、アスリートが実際に使っている、競技用の義足を装着し、歩かせてもらった。義足は、立ちあがるのがかなり大変で、立ちあがるとバランスをくずして倒れてしまいそうだった。足の裏にバネがついているような不思議な感覚で、義足をつけているときは、身長が二十〜三十センチメートルほど高くなった。歩くのもバランスをとる力が必要で、足をくじいてしまいそうで怖かった。座るときも、立つときと同じように大変だった。

競技用の車いすでのスピード測定では、車いすの車輪を回すのにかなり力が必要であり、私が思っていたよりも記録が出なかった。この車いすを、アスリートは時速四十〜五十キロメートルで走れると係の人が教えてくださった。とてもすごいと思った。

車いすテニスの体験では、固定された車いすに座って係の人が投げたボールをラケットでうち返し、袋の中にボールを入れるという内容だった。袋の中にボールがなかなか入らなかったから、とてもくやしかった。実際の車いすテニスはオリンピックのテニスとほとんど同じだが、二バウンドまでの返球を認めるなど、一部を変更している。オリンピックのテニスとパラリンピックのテニスでは、他にどのような違いがあるのか知りたいと思う。

この三つを体験して、一般のオリンピックの競技よりも、体力が必要だと感じた。このことから、障害のある人がスポーツをする意味は、病気やけがに負けない、体づくり・体力づくりであると思った。

来年は東京でオリンピック・パラリンピックがある。私たちの街・千葉にも、オリンピック・パラリンピックがやってくる。そのため、外国からも障害のある人がたくさんくるだろう。街でもし、困っている人がいたら、助けてあげようと思う。おもてなしの気持ちを持ってスムーズに接することができるよう、英語を話せるようになりたい。また、障害のある人の気持ちを考え、寄りそうことができるように勉強したい。